

NEWS RELEASE

平成 21 年 10 月 15 日

**デジタルコンテンツ管理の国際標準「許諾コード方式」の創出と普及推進
に関する功績により電通社員が「IEC1906 賞」を受賞**

株式会社電通(本社：東京、社長：高嶋達佳、以下電通)の社員が、10月15日、都市センターホテル(千代田区平河町)で開催された2009年「IEC1906賞」(※1)表彰式で、IEC(国際電機技術標準化会議)(※2)より、デジタルコンテンツ管理の国際標準である「許諾コード方式」(※3)の創出と、その国際標準化普及推進活動への貢献が認められ、「IEC1906賞」を受賞しました。

電通は、デジタルコンテンツが急速に浸透する中、モバイルやインターネット、デジタル放送など様々な媒体におけるデジタルコンテンツ流通を活性化するため、コンテンツの複雑な権利許諾情報を簡易に一元管理できる技術方式である「許諾コード方式」を1997年に考案し、その普及を推進してきました。

2008年のIEC(国際電機技術標準化会議)において、「許諾コード方式」はIEC62227として国際標準化が認定されました。この「許諾コード方式」は、本年9月より当社がサービススタートした電子書籍サービス(MAGASTORE)や、FMラジオ局が音楽権利団体へ行う放送使用楽曲自動報告システム、携帯キャリアメーカーがFMラジオ局と放送・通信連携して行う音楽配信サービスなど、これまでにデジタルコンテンツの様々な視聴・消費サービス分野に活用されています。

今後は、2011年の地上波デジタル放送への完全移行後を見越した、次世代型のマルチメディア放送の技術仕様としての導入も検討されています。

この度、「許諾コード方式」の創出とその普及推進活動に努めた電通コミュニケーション・デザイン・センター プロデュース室シニア・プロジェクト・マネージャー 飯田尚一がIEC(国際電機技術標準化会議)よりその功績を認められ、2009年「IEC1906賞」を受賞いたしました。

今後電通は、デジタル・テクノロジーの発展がもたらすプラットフォーム時代において、クライアント、メディア、生活者それぞれに新たな価値を提供していくため、この「許諾コード方式」の更なる普及を推進して参ります。

<受賞内容>

2009年「IEC(国際電機技術標準化会議)1906賞」

電通コミュニケーション・デザイン・センター プロデュース室シニア・プロジェクト・マネージャー 飯田尚一(いいた たかひと)

<受賞理由>

IEC62227(許諾コード)のアイデアを主要メンバーとして創出し、また、エキスパートとして、IPTV関連のITU-T、特にTC100/TA8とSG16Q.13/16との間の合同プロジェクトを含むIEC62227の新バージョン開発に貢献した。

(※1)「IEC1906 賞」

IEC は発足 100 年を迎えた 2006 年に、IEC への貢献者に対し、その貢献を讃えるため表彰制度を開始した。各 TC (技術委員会) のリーダーにより推薦される。

2009 年、本賞は、全世界で 119 名、そのうち日本人は 16 名が表彰を受けた。

(※2)IEC(国際電機技術標準化会議)

IEC は、ISO(国際標準化機構)、ITU(国際電気通信連合)と並ぶ国際標準化機関で、電気・電子技術分野の国際規格を作成している。

(※3)「許諾コード方式」

「許諾コード方式」：権利者からの複雑な権利許諾情報の要素を簡素化＝数値コード化することにより、携帯電話/携帯端末/家庭内 TV 受信機/STB/PC などの様々な機器で簡単に利用できる事を目的とした、IEC で標準化されている技術規格。コンテンツにバンドルされた、コンテンツ ID、権利者・許諾管理者を特定する From ID、配信事業者・利用者・機器を特定する To ID を特定することで、コンテンツの利用、消費実績をコンテンツ所有者・権利者が管理することができる。

以上